

## 18. 症状および兆候

### 文献

古屋英治, 金子泰久, 上原明仁, ほか. 肘関節屈曲伸展運動回数に及ぼす円皮鍼及びマッサージの効果. 全日本鍼灸学会雑誌 2008; 58(3): 487. 医中誌 web ID 2008280629

#### 1. 目的

上腕屈筋群の低負荷等張性運動回数に対する円皮鍼、マッサージの有効性評価

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT-cross over)

#### 3. セッティング

記載なし。

#### 4. 参加者

健康成人男性 50 人

#### 5. 介入

Arm 1 : 円皮鍼群 人数の記載なし

Arm 2 : sham 群 人数の記載なし

Arm 3 : マッサージ群 人数の記載なし

Arm 4 : コントロール群 (無処置群) 人数の記載なし

#### 6. 主なアウトカム評価項目

最大筋力、運動回数、つらさの程度の Visual Analogue Scale (VAS)

#### 7. 主な結果

最大筋力は各群で有意な差はなかった。肘関節の屈曲伸展回数は ex2 の回数が円皮鍼群 103.2±48.2 回、sham 群 80.9±34.9 回で有意 ( $p < 0.01$ ) であった。マッサージ群は 75.5±31.0 回、コントロール群は 71.8±41.6 回で差はなかった。VAS 値は円皮鍼群と sham 群の間に有意な差はなかった。マッサージ群はコントロール群に対し有為に減少した ( $p < 0.01$ )。

#### 8. 結論

円皮鍼の持久系運動に対する効果からトレーニングやリハビリテーションに応用できる可能性が示唆される。

#### 9. 論文中的安全性評価

記載なし。

#### 10. Abstractor のコメント

肘関節屈伸に対する、頸肩部円皮鍼の耐久能効果と上腕二頭筋部マッサージのつらさ度の軽減効果を示唆する研究で興味深い。結果の記載内容から推察すると、本試験は Arm 1 と Arm 2 で円皮鍼の、また Arm 3 と Arm 4 でマッサージの各効果を cross over 法で比較検証したものと思われるが、抄録の限界とはいえ、介入群とコントロール群の人数を含め、研究デザインを明確に記載する必要があったと思われる。この試験ではマッサージの運動耐久能効果を確認できなかったが、介入方法について課題を指摘しておきたい。すなわち、運動耐久能に対する有効性を評価するという研究目的からすれば、軽微な圧による軽擦法に比べ、より高い筋循環効果が期待される把握等の揉捏法を介入刺激に採用した方が、妥当ではなかったかと思われる。介入刺激の在り方を含め、マッサージに絞り込んだ研究に期待したい。

#### 11. Abstractor and date

藤井亮輔 2011.2.28